

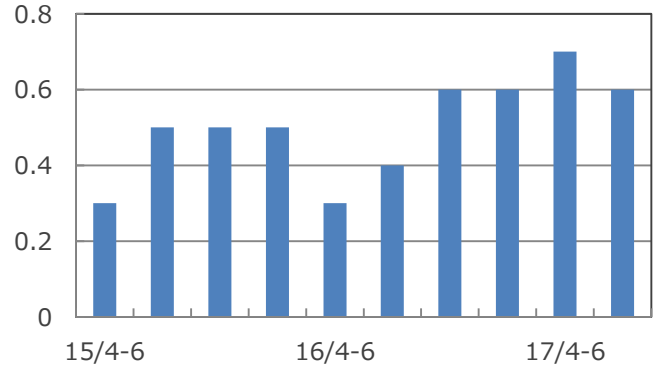
今日のトピック ユーロ圏経済の動向

景況感は上昇基調、堅調な経済成長が続く見込み

ポイント1 堅調な経済成長 景況感も改善が続く

- ユーロ圏景気は引き続き堅調です。2017年7-9月期のユーロ圏の実質GDP成長率（確報値）は前期比+0.6%、前年同期比+2.5%となり、潜在成長率を上回る景気拡大が続いています。
- 景気の先行きを見るうえで参考となる、欧州委員会による11月のユーロ圏総合景況感指数は、114.6と一段と改善しました。また10月分は114.0から114.1へ上方修正されました。同指数は、2012年10月を底として上昇基調にあります。

(前期比、%) 【ユーロ圏の実質GDP成長率】



(注) データは2015年4-6月期～2017年7-9月期。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価はECB目標を下回る ECBは量的緩和縮小・延長を決定

- ユーロ圏の10月の消費者物価指数は前年同月比+1.4%となりました。市場予想（ブルームバーク集計）では、11月は同+1.6%が見込まれていますが、欧州中央銀行（ECB）が目標とする+2%近傍を下回っています。
- ECBは、10月下旬の理事会で、量的緩和策の資産購入額を来年1月から半減させ、期間を9カ月間延長すると発表しました。ECBは必要があれば、量的緩和の延長や資産購入規模の拡大を行うと、引き続き緩和的な姿勢を示しています。

【ユーロの対円・対米ドルレート】



(注) データは2015年1月1日～2017年11月29日。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 潜在成長率を上回る成長が続くと見込まれる

- ECBは量的緩和策の規模縮小と期間延長を発表しましたが、インフレについては緩やかな上昇にとどまると見られるため、政策金利を当面は据え置くと見られます。こうした低金利政策の継続は、景気の下支え要因と考えられます。政府支出の増加や低金利を背景に内需は堅調です。輸出は米国向けやアジア向けの回復により、全体として増加傾向が続くそうです。また好調な景況感から、ユーロ圏経済は潜在成長率を上回る成長が続くと見込まれます。

ここもチェック! 2017年11月 7日 『カタルーニャ』独立問題の経過とその影響
2017年10月27日 ECBの金融政策 (2017年10月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。